

# 偕行アートクラブ展を

## 見学して

厚生委員長

小山田 隆 陸自75

9月24日から同29日の間、京橋にある「ギャラリーびくと」で、第40回偕行アートクラブ展が開催され、見学に行きました。

偕行アートクラブは、1979年に創立された同台アートクラブを引き継ぐ形で、1986年に創設された絵画クラブと聞いております。今回は、第40回目の開催ということでしたが、同クラブの歴史の重みを感じます。

会場に入ると、正面に飾ってある鈴木一直氏（陸士60）の「眺望 立山連峰」、同クラブ会長の山本俊介氏（陸士61）の「アルバンシス（スペイン）」と「スミュール・アン・ノーソワ（フランス）」の3作品が目に入りました。それぞれ30号の大作で、その迫力に圧倒されました。

鈴木氏の作品は立山連峰の雄大な自然が迫りくる作品で、富山市の街並みや田園地帯が詳細に描かれています。山本氏の作品は、さすがに建築家だけあって、しっかりしたデッサン力を背景に、南欧の暖かな雰囲気を感じさせる色合が印象的な作品でした。

部屋の両側には、整然と、20号、10号、6号ぐらいの油絵と水彩画が計30点展示されていました。動物、風景、人物など、それぞれの作品に作者の対象を見つめる真剣な眼差しが感じられます。

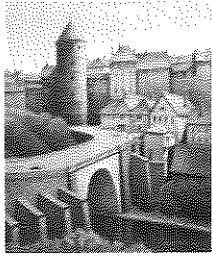
偕行アートクラブ展は、全体的に落ち着いた品格のある作品が多く、同台アートクラブ以来の良き伝統を継承しているのではないかと思つた次第です。

なお、今年は文化祭展示をコロナ禍により中止しております。皆様の力作を展示できないこと、大変申し訳ありません。

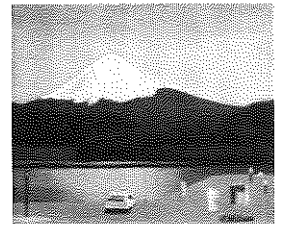
ここで「ギャラリーびくと」で印象に残つた作品のいくつかを紹介いたします。



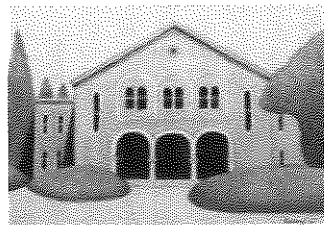
「眺望 立山連峰」  
鈴木一直氏（陸士60）



「スミュール・アン・ノーソワ」  
山本俊介氏（陸士61）



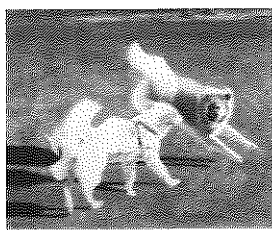
「富士に立つ」  
澁谷辰夫氏（陸士61）



「兼松講堂（一橋大学）」  
町田家米造氏（陸士61）



「秋立ちぬ」  
山田秀次郎氏（空自61）



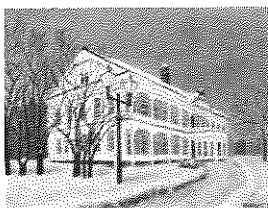
「友」  
若木利博氏（陸自66）



「地雷原跡開拓村（カンボジア）」  
柴田幹雄氏（陸自75）



「外交官の家」  
中川精二氏（民間会員）



「冬の旧旭川偕行社」  
佐藤正氏（陸自78）

会場の「ギャラリーびくと」は、近々、移転を計画しており、同会場での偕行アートクラブ展は、今年が最後となり、来年は新しい場所で開催する予定とのことです。これからも、偕行アートクラブの活躍を期待いたします。